11・29「リニア・シンポジウム」

11 月 12 日に「予告」レポートしたが、29 日(土)13 時から名市大本部 4 階ホールで件名のシンポジウムが開催され、後半にパネラーをつとめた。

写真のように、私にとっては「想定外」の参加者があり、量質ともに充実したシンポジウムになった。これも 4 月に赴任した二人の若き「エース」の活躍によるものである。私では考えられない「企画力」であり、頭が下がる。最初はパネラーを断ったが、二人の熱意に引きうけることにした。引きうけて良かったと思う。

とにかく一緒にパネラーをつとめた江口忍・共立総合研究所副社長と田中和生・名古屋駅太閤通口まちづくり協議会賑わい委員長から、多くの「刺激と情報」をもらった。江口さんの講演、学生の調査報告とともに、パネル討論も面白い展開になった。

写真下はパネル討論の最初に私が立って話したときである。レポートで数回にわたり書いたことなどをベースに、次の 4 点を駆け足で話した。

・名駅地区の思い出、名駅地区との関わり
・巨大事業リニアの光と影
・「リニア・インパクト」をどう考えるか
・過去の事例から、これからの課題

昨年度の社会調査実習「名古屋の防災・減災まちづくり―名古屋駅とその周辺地区を事例として」の成果などをもとに、名駅地区の地域特性として 4 点あげた。

・国土の東西、東海圏を結ぶ巨大ターミナル
・大都市名古屋の栄と並ぶ「2 大都心」
・開発の歴史と災害脆弱性、不足するアメニティ・魅力
・名駅地区の東と西、東に偏る開発と広がる地域格差

こうした名駅地区の地域特性、とりわけ駅西の歴史と特徴を活かしたまちづくりが求められると述べた。開発が先行した駅東(広小路口)とは差別化した、駅西ならではの、駅西らしいまちづくりである。数年前に設立された太閤通口まちづくり協議会にエールを送り、パネル討論への最初の問題提起を行った。

(2014 年 12 月 2 日)